

第27回 日本医療マネジメント学会学術総会開催のお知らせ(第1報)

少子・高齢化時代の医療マネジメント ～医療・介護に求められる変革～



第27回 日本医療マネジメント学会学術総会
会長 上之原 広司

(国立病院機構仙台医療センター
名誉院長 社会医療法人康陽会
中嶋病院顧問)

この度、第27回日本医療マネジメント学会学術総会を2025年7月18日(金)・19日(土)の2日間にわたり、仙台国際センター・江陽グランドホテル・川内萩ホールに於いて開催させていただくことになりました。東北地方での開催は4回目で仙台市では8年ぶり3回目の開催となります。皆様方のご期待に応え、充実した学術総会となるように準備を進めてまいります。

2020年より続いた新型コロナウイルス感染症に対する診療が通常診療に移行しました。しかし、これからも小規模の流行は繰り返されると思います。これまで学んだ感染症対策の徹底やリソースの効率的な活用、患者への適切な情報提供や支援が重要です。さらに、通常診療と新型コロナウイルス感染症への対応を両立させるための柔軟な医療システムの構築が求められています。

2024年1月1日には能登半島地震が発災し災害医療が展開されています。阪神淡路、東日本、熊本と大地震を経験し災害医療システムも進化してきましたが震災への対応については被害の多様性、地域性など複雑であり個々の病院に則した継続的な整備が必要です。発災後は地域の病院においては被災者の診療とともに平時の医療の維持が大きな課題となります。パンデミックや大災害の状況下においても回復可能なレジリエントな社会を目指すべきとされています。各地の震災からの復興についても情報交換したいと考えております。

学術総会テーマは少子・高齢化時代の医療マネジメント～医療・介護に求められる変革～としました。日本の人口構成の将来推計によると人口減少社会、生産年齢層の減少、そして後期高齢者の急増が予想されています。一方、医療従事者は慢性的に不足しており、さらに、働き方改革により時間外勤務は制限されます。これらを補うために医療従事者の生産性の向上、高齢者・女性の活用、外国人の参画などの人材確保が検討されています。さらに後期高齢者の増加において顕著

なのは85歳以上の超高齢者の急増です。要支援・要介護の状況にある方も多く、地域格差も多いことより、地域の実情に合わせた、かかりつけ医機能を有する病院を中心とした地域完結型の医療・介護提供体制の構築が必要とされています。自宅および施設と病院をつなぐ高齢者救急は年々増加しており、前述の後期高齢者、85歳以上の割合が増加すると予想されています。急病・一般負傷が多く、軽症・中等症が多いのが特徴です。在宅医療・訪問看護、介護施設と二次救急病院との医療体制を成立させるには高齢者搬送の効率化、適正化が不可欠です。

病院においては各部署でDXが必要とされ急ピッチで進んでいます。医療の質向上、患者安全、地域連携、業務の効率化、働き方改革に欠くことのできないものです。医療の質の向上と病院組織の効率化が本質であり、これらは本学術総会の検討テーマの3本柱であるクリティカルパス、医療安全、医療連携でもあります。今まで積み重ねてきた知見を活かし活発な討論、情報交換の場となることを期待します。

仙台は杜の都と呼ばれ緑豊かな町です。学術総会会場周辺には伊達政宗の騎馬像がある青葉城址、伊達政宗や仙台藩の展示が充実しているリニューアルした仙台市博物館、仙台藩主伊達家の菩提寺である瑞鳳殿などがあります。少し足を延ばせば松島、蔵王山の観光、秋保温泉、鳴子温泉などの名湯も楽しめます。食に関しては金華山沖はじめ沿岸の漁場で獲れる新鮮な魚介類、牛タンなどが宮城の味として楽しんでいただけますし、蔵元も多く日本酒も堪能していただけます。多くの皆様の参加をお待ちしています。

会 期：2025年7月18日(金)・19日(土)

会 場：仙台国際センター・江陽グランドホテル・川内萩ホール

プログラム(予定)：基調講演、会長講演、招待講演、特別講演、教育講演、教育セミナー、シンポジウム、会長特別企画、一般演題(口演/ポスター)、クリティカルパス展示、モーニングセミナー、ランチョンセミナー、アフタヌーンセミナー、市民公開講座

問い合わせ先：第27回日本医療マネジメント学会学術総会